

第 32 回練馬区新人演奏会出演者インタビュー

【ピアノ部門最優秀賞受賞】 伊舟城歩生 (いばらきあゆむ) さん



今年の5月28日、6月25日に行われた第32回練馬区新人演奏会出演者選考オーディションでピアノ部門最優秀賞を受賞した伊舟城歩生さんにピアノとの出会いから練馬区新人演奏会について等をお聞きしました。

伊舟城さんは現在、東京音楽大学ピアノ演奏家コース2年に特別特待生として在学中です。

ーピアノとの出会いは？

2歳からヤマハ音楽教室に通っていました。最初はエレクトーンで、明確にピアノをいつから弾きはじめてか覚えてないのですが、4～5歳からピアノのレッスンが始まったと思います。音楽教室には兄弟が通っていたので、普通に通っていました。その当時は、特にピアノが好きとかそういう感じではありませんでした。大人になっていくにつれてピアノが好きになりましたね。生活の中にピアノがあるのが自然でした。中学2年生から東京音楽大学の付属の教室に通い始めました。

ー中学校になると学校行事で合唱コンクールのようなものがあったと思いますが、伴奏をされていましたか？伴奏者賞の受賞もあったかと思いますが、いかがでしたか？

合唱コンクールはありました。全学年で伴奏をして、伴奏者賞も各学年でいただきました。学校の中で、ピアノをやっている方も少なかったせいでもあると思います…。

ーお話を伺っていて、ピアノは生活の中に溶け込んでいるのがよくわかりますが、改めてピアノの魅力ってどんなところですか？

良くも悪くもその人が出るところでしょうか。弾く人によって音も全く違ふし、コンクールの時によく思うのですが、とても面白味があると思います。

—ピアノはその人の魅力も引き出す楽器というところですか？

そんなにカッコ良いものではないと思いますが(笑)、演奏と比例していると思います。

—第 32 回練馬区新人演奏会出演者選考オーディションを受けるきっかけは？

学校でもチラシを見ていましたので、オーディションがあることは知っていました。今回から練馬区以外の人でも申し込みができるようになったので、申込みをしました。コンチェルトが弾ける機会、演奏会で弾ける機会ってなかなかないですよ。そこが魅力でもありました。東京フィルハーモニー交響楽団と一緒にできるというのもなかなかないので。

—練馬区新人演奏会は、第 30 回(平成 27 年度)から東京フィルハーモニー交響楽団と一緒にやらせていただいています。主催者としてはやはり、参加者に魅力あるオーディションにしたいという思いがあって、今に至っています。主催者側の気持ちが伝わったことが実感できてうれしいです。今年は、応募資格を区外の方へ広げて初めてのピアノ部門のオーディションでした。参加者数52名の中で、その頂点に輝いたのが伊舟城さんです。オーディションに参加された感想は？

(少し考えて)いつもと同じように演奏できたと思います。

—第 32 回新人演奏会の演奏曲にプロコフィエフ「ピアノ協奏曲第 3 番」を選ばれています。この曲になぜ決めましたか？

魅力的な曲ということと、あと、演奏時間がおおよそ決まっていたので、何曲か考えたのですが、この曲にしました。

—この曲の聴きどころはどんなところですか？

オーケストラとの掛け合いが面白く、それまでのコンチェルトと比べるとオーケストラと対等という感じがします。ぶつかり合うところがあったり、メランコリックなところと一緒に演奏したり、リズム的な面白さもあり、旋律の美しさ、ロシア独特の哀愁がただよぶところなど、すごく対比があり、いろんな楽しみがある曲だと思います。

—この曲は、活気があって、その分早いリズムでの演奏がある等、非常に高い技術を求められる曲という印象を強く感じました。その点はいかがですか？

そうですね、打楽器的な使い方というところもあったり、音量も求められますので、大変な曲ではありますが。特に 3 楽章では一気に演奏するので体力的にも大変な面はあります。

—オーディションで最優秀賞を受賞して新人演奏会に出演が決まった際に、周囲の方々はいかがでしたか？

ええ、まわりの人は喜んでくれて、「コンチェルトを弾く」と言ったら、みんな「聴きに行くよ」と言ってくださって、うれしかったです。

—新人演奏会への意気込みを教えてください。

自分の演奏というより、この曲自体が、ピアノの使い方というか、見栄えではないですが、斬新だなと僕は思っています。技術面、テクニカルな弾き方が、それこそ、小中学生の方がいるなら、そういう面も楽しいかなと思います。

—ご自身は、小中学生のころ、クラシックの演奏会には行かれましたか？

ピアノをやっていたので、時々行っていました。住んでいる地域にプロの交響楽団があり、学校でコンサートをやっていて、小学校と中学校で必ず1回は聞く機会もありました。

—演奏会が終わった後、自分にご褒美をあげるとしたら、どんなご褒美ですか？

こういう習慣がなくて…、まわりの友人は試験が終わったらどこかに行くとか聞きますが、自分は特になくて。寝たいです(笑)。学校があるときは、結構時間の制約があるので、帰りも遅くなったりして、練習する時間もなかなか取れない時もあります。

—好きな演奏家または好きな曲等を教えてください。

(悩まれた後に)結構好きなのはウィリアム・カペル、昔の人で1950年代に30代で亡くなられた人です。若くして亡くなったので、録音が少なくてもすごく好きで、高級感あって、「端正な」と言うか、整った演奏をする方です。昔の録音なんで、ザーザー言っているのですが、粒立ちが良いというか、すごい飛んでくるんですね。好みもあるとは思いますが、好きな演奏家のひとりです。

好きな作曲家はチャイコフスキーです。作曲家のこの曲は好きというのは結構ありますが、チャイコフスキーの曲はほとんど好きですね。

—チャイコフスキーから影響を受けたことってありますか？

自分でわかるところではないですが、チャイコフスキーは聴いていて、喜びとか苦しみとか感情がわかりやすいというか、感情の起伏が聴いていてこち良いです。自分は感情の起伏が大きいほうではないと思うのですが。

—どんな演奏家になりたいですか？

いろいろあるのですが、一番は、「音」を聴いて、「あ、この人の演奏だ！」とわかってもらえる演奏家になりたいです。人それぞれ作品の解釈があると思うのですが、みんな違ってよし悪しが決まっているものではないので、特にピアノは、同じ楽器を弾くわけで、そこで自分が出せる演奏家っていいなと思いますし、なりたいと思います。

—今回練馬区の新人演奏会ということで、「練馬」と聞いて思い浮べるものを教えてください。

学校が東京音楽大学なので、友達が練馬区に住んでいる人が多くて、「住みやすそうな街」という印象はあります。江古田付近だと音大生向けの賃貸物件もあるので。

—では最後に、今回のインタビューをご覧になった方へのメッセージをお願いします。

自分が演奏する曲はコンチェルトの中でもとても楽しい曲なので、東京フィルハーモニー交響楽団と一緒にできることをすごく楽しみにしています。

<インタビューを終えて>

最初、緊張をされていたご様子でしたが、インタビューが進むうちに、笑いも増えてここに掲載しきれないお話しも伺いました。ピアノの話になると、ご自身の気持を表す言葉を選んで、丁寧にお答えになっていたのが印象的でした。